

# 岳鷹

発行者 熊鷹高等学校  
行 津市同窓会  
立 大津地区同窓会  
本 熊鷹  
熊鷹

## ごあいさつ

岳鷹会長(高校第七回卒)

後藤 敦夫



岳鷹会会員の皆様、恙なくご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。皆様には、岳鷹会の運営に、日頃から協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

熊本大地震から五年を過ぎ、新五七号線の開通、豊肥線の完全開通、立野の新阿蘇大橋の完成開通と地震による復興は進んでいます。昨年二月、中国の湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスによる感染拡大が世界に猛威をふるい、一年二ヶ月を過ぎました。一日も早い収束を願うものです。本年、岳鷹会は、創設七十三周年を迎えます。同窓の皆様と共に、創設時の先輩方の思いと理念を継承し、後輩諸氏に引き継いでいくべく責任の重さを痛感しながら、お手伝いをしてまいりました。ただ、最近つよく感じるのは、

若い方々の母校並びに同窓会に対する思いが変わってきているのではないかと感じています。青春時代の三年間を同じ学舎で過ごし、今の自分の基礎を形成すべく頑張ってきたことを思い起こして、先輩・後輩として、楽しく語り合える場所、「岳鷹会」にして欲しいのです。

岳鷹会は、熊本県立大津高等学校(旧制中学校を含む)を卒業した熊本市内地区(近隣市町村を含む)在住者・在勤者・在勤経験者の同窓の会「本校同窓会鷹揚会」の「熊本市地区支部」であり、会員の交流と親睦と同窓の絆を深め、会員各位の益々の発展と母校並びに会の更なる隆盛に繋がるを目的に今日まで続いております。

会報の中に「令和三年度総会」のご案内がありません。先に述べました、新型コロナウイルスの感染拡大が続いており、役員で相談の結果、本年も中止することになりました。このような異常事態ですのでお許し下さい。

岳鷹会を更に発展充実させ、楽しい同窓の和並びに輪を拡げ、深い「絆」のもと、岳鷹会の隆盛を願うものであります。母会は、来年は、創立百年を迎えます。歴史の重みを深く受けとめているところで、最後に、会員の皆様の御健勝

表題の「岳鷹」は岳鷹会会員で旧中第二十一回(昭和二十三年)卒の岡村研城(英雄)氏の書です。

とご活躍、岳鷹会の更なる充実を願い、母校の更なる飛躍、発展を念じ、在校生の益々の活躍を期待し、ご挨拶いたします。

## 「岳鷹」の発行に寄せて

熊本県立大津高等学校

鷹揚同窓会会長

緒方 一夫  
(高校第二十五回卒)



令和三年度を迎え、岳鷹会会員の皆様にはご清栄のこととお慶び申し上げます。熊本でも例年より早く、三月中旬に桜の開花が宣言されましたが、新型コロナウイルス感染症が終息しない中では花見気分からは程遠いようです。

大津高校では、三月一日に卒業式が挙行されました。多くの学校行事や高体連、高文連関係行事も相次いで中止され、楽しめるべき高校生活に影を落とす一年間でしたが、簡素な中にも、工夫を凝らしていただき立派な式でありました。大高生が毎日眺めている「凡事徹底」が当たり前のことを当たり前に、という言葉を、いかに大切に尊ぶことかを痛感します。さて、大正十二年、旧制大津中学校の創設以来、着実に発展を続けてきた母校は、令和四年度に創立百周年を迎えます。鷹

揚同窓会では、百周年を記念して、同窓会館の建設、同窓生名簿や記念誌「鷹揚」の発行、母校の学習環境整備、育英奨学制度の創設などを計画し、実行委員会を組織して、一歩ずつ進めています。岳鷹会の皆様には、百周年記念祝賀会の開催に向けてご協力をお願いします。

なお、記念事業の遂行や母校・在校生への支援には、多額の経費が見込まれることから、五千万円を目標に募金活動を行ってまいります。来年秋までの募金期間ではあります。いま、まだ、熊本地震からの復興途上にあたり、コロナ禍で苦しんでおられる方が、二人の百歩よりも百人の「一歩」の精神でご協力をお願いします。

最後になりましたが、今年も、岳鷹会会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念するとともに、母校の益々の発展、在校生の文武両道にわたる活躍を期待します。

## 「岳鷹」あいさつ

大津高等学校長

大嶋 康裕



大津高校熊本市同窓会の皆様、初めまして令和三年度定期異動により、矢部高校から赴任いたしました大嶋です。教職生活最後の年を迎えるこの高校で皆様伝いができるよう精一杯取り組み

んでいく所存でございます。今、今までの御支援・御協力を申し上げます。私事ですが、大津高校には少なからず御縁を感じております。というの、私の高校時代の恩師が教職生活を始めた高校がこの大津高校です。また、私の長男が教職生活を始めたのもこの大津高校です。赴任しまして数日が過ぎ、様々な状況が見えてきました。町内は様々な場所でも宅地化が進み、県内でも数少ない人口増加の地域であります。とはいっても、合志市・菊陽町を中心とする市化が進み、西側への一方通行で本校への流れにはなっていない状況にあります。また、熊本地震から復旧した豊肥線でも、通過点となりつつあります。しかし、大津高校には、個性輝く沢山の人材が入学しています。もとより、サッカーに関しては全国制覇を目指しています。また最近では、ピリオパトルといった本の紹介をプレゼンする競技会でも熊本県ではNO1であり、県代表として全国大会へ出場しています。文武一体・凡事徹底・恕の心を基本理念として日々頑張っている生徒諸君の姿は眩しい限りです。令和四年度には一〇〇周年を迎え在籍している本校教職員・生徒・保護者さらには、全国の同窓会の皆様と協力して立派な式典になるように精力を傾けようと思っております。さらには、次なる新たなステージへ羽ばたけるような礎を、築けるように鋭意努力していかねばと思っております。皆様と共に歩んで一〇〇年を次の世代と共に次の一〇〇年へと紡ぐよう協力をお願いし着任のあいさつとします。よろしくお願いたします。

### 熊本県立大津高等学校 近況報告

岳鷹会の皆様には平素より母校の教育活動に多大なるご支援、ご協力をいただいておりますことに、対し、生徒、職員共々心から感謝申し上げます。

本号において、本校の近況を報告させていただきます。教頭の浦本と申します。大津高校に赴任し、今年で二年目となります。本校は本年度創立九十九年目を迎え、来年（令和四年）に百周年を迎えます。このような伝統ある大津高校に赴任できたことを大変嬉しく感じております。

令和二年度（二〇二〇年度）は世界的パンデミックの状態に陥った新型コロナウイルス感染症の拡大のため、それまで誰も想像することのなかった一年となりました。「新しい生活様式」や「ソーシャルディスタンス」「三密」など、人と人との接触やコミュニケーションが制限された。「ロックダウン」や「緊急事態宣言」などこれまで人類が経験したことのない世の中となり、大津高校でも三月から五月までは一斉休校となりました。その後も感染拡大の終息が見えず、五月末の熊本県高等学校総合体育大会、総合文化祭の中止や本校の生徒が参加予定であった各種大会の中止が相次ぎました。三年生にとっては高校生活最後の年でもあり、将来の道筋を決める大事な一年でしたが、ほとんどすべての学校行事が中止もしくは縮小となりました。そんな中でも、本校二年生の生徒会の発案で、一度は中止となつたクラスマッチを、三年生のために計画立案しての実施、十一月には例年実施していた「チャレンジ大会」をPTAの多大な協力をいただきながら、距離は三十キロメートルと縮小しましたが、

開催することができました。ことある毎に「百歳」が叫ばれる中でも、本校では感染対策を最大限に行いながら、できる限りの行事を執り行うこともできました。これも、生徒、保護者、地域の方々そして卒業生の皆様方の多大な御協力があったからこそ賜物だと感じた次第です。新型コロナウイルス感染症の収束の見通しがまだまだ見えない状況ではありますが、平穩な通常の教育活動が行えるようになることを祈るばかりです。

前置きが長くなりましたが、令和三年度は一七一名の新入生を迎え、全校生徒六六一名でスタートしました。職員員の異動に関しては、二七名の先生方を迎え総勢七十七名で来年に迫った創立百周年記念式典等に向け、教育活動に取り組みしていく所存です。

さて、令和二年度における母校の取組、後輩達の活躍を、岳鷹会の皆様にごの紙面をお借りしてご報告いたします。

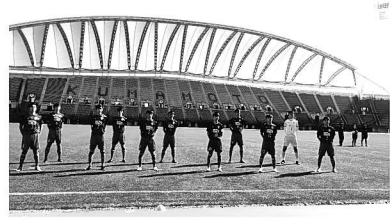
まず、令和三年三月の卒業生二八八名の進路状況です。国公立大学への合格者は、筑波大学、岡山大学、島根大学、山口大学、大分大学、佐賀大学、宮崎大学、鹿児島大学、熊本県立大学などに二五名と、昨年度と同人数の合格者数を輩出したしました。合格を勝ち取った生徒の多くは、日頃の学校での授業を中心とした教育活動に率先垂範の姿勢で臨み、また、放課後の部活動にも熱心に取り組むなどの「盡己・成己」の精神を成し遂げた生徒たちでした。また、私立大学には延べ一九九名、短期大学に延べ二三名、高等看護学校に延べ十名、専門学校に延べ七九名、熊本県警や宇城広域連合消防本部をはじめとする公務員に延べ一五名が合格し、就職では本田技研等一二名が内定いたしました。生徒一人ひとりの進路実現に向けた、小論文指導から面接指導、受験対

策に対して全職員で関わり、丁寧な指導を行い、それに対して生徒諸君もそれぞれの夢実現に向けて一生懸命努力を重ねてきた結果だと考えております。後輩達も先輩に続けとモチベーションを高く持ち、日々の教育活動に取り組みむものと確信しているところでです。

次に、部活動の活躍をお伝えします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、本年度は大会の多くが中止となりました。そのような中でも男子サッカー部においては、スーパードリンスリーグ（令和二年度）はプレミアアシスリーグをまとめて実施、で優勝を果たしました。令和二年度全国サッカー選手権熊本県予選では惜しくも三位となりましたが、令和二年度熊本県下大会（新人戦、令和三年一月実施）で優勝、その後の九州高等学校（U-17）サッカー大会九州大会に出場するなど、公立の雄として輝かしい戦績を収めました。悲願の日本一に向けて、今後の活躍がますます期待されています。

少林寺拳法部は県高校総体の代替大会において、男女自由単独演武で一位、二位を獲得し、第七回九州高等学校選抜大会では男子自由



由単独演武で三位に入る等の活躍が光りました。

美術部・美術コースでは、新型コロナウイルス感染症拡大のため多くの公募展が中止になった中でも可能な限り制作及び出品に取り組みました。その結果、県内の高校美術部が集う「第四十五回熊本県高等学校美術展」では優秀賞四名、内一名が九州高校総文祭熊本大会の県代表に選拔されました。

更に一名が特別賞として崇城大学賞を受賞しました。「第十七回 田山淳朗賞 高校生フアッション画コンテスト in 九州・沖縄二〇二〇」ではグランプリと熊本特別賞の上位二冠を受賞しました。その他、県内の高校生を対象にしたものでは出品した全ての公募展で入選、入賞を果たしています。また全国を対象にしたものでは、「令和二年度山火事予防ポスター用原画」において最高賞の農林水産大臣賞を受賞し、五月に東京で表彰を受ける予定です。また、一般対象の「第三十八回吉井淳二記念大賞展小品部門」で優秀賞をはじめ出品者九名全員が入選しました。

放送部は、「第四十二回九州高校放送コンテスト（第四回全九州高等学校総合文化祭熊本大会）」において、熊本地震により



被災したJR豊肥本線の全線復旧を取材したテレビドキュメント番組を発表し、県予選で一位、九州大会において準優勝しました。この結果、熊本県高等学校文化連盟優秀芸術文化賞を受賞し、令和三年度に和歌山で開催される全国高等学校総合文化祭への出場推薦をいただいたいます。

また、図書部の取り組みの一環で「ビブリオバトル」にも参加し、三年連続熊本県代表となりましたが、令和二年度の全国大会は中止となりました。毎学期、校内ビブリオバトルを開催しており、校内でもこの取組が定着しつつあります。次年度も熊本県代表となり、ぜひ全国大会に出場して欲しいと願っています。

学校行事についても、新型コロナウイルス感染症の影響で、五月実施予定であった体育大会、十月実施予定であった文化祭は中止を余儀なくされました。そのような中でも、伝統行事である、十一月の「第三十五回チャレンジ大会」は、距離を三十kmに縮小したものの、従来の矢護山系の起伏に富んだ難所コースを中心に全生徒が挑みまわりました。真剣にチャレンジする姿、走り終えたあとの達成感を全身で表現、そしてお互いのチャレンジを称え合う姿を見て、大津高校生の熱いハートにあらためて大変感動しました。

最後になりますが、これまで先輩方が築いてこられた伝統をしつかりと継承し、また大津高校が令和の時代として新しい風を巻き起こす拠点校としての力を発揮できるよう、本校の教育の柱である「盡己・成己」「凡事徹底」「恕のこころ」「文武一体」を日々実践し、大高生の益々の活躍を先輩方にご報告できるように、これからも日々精進してまいります。

# 令和元年度収支決算書

(令和元年5月1日～令和2年4月30日)

(収入の部)

項目	区分	令和元年度 予算額	令和元年度 収入額	比較増減	摘要
会費		200,000	176,000	△24,000	持参 @ 2,000円 × 32名 参込 @ 2,000円 × 56名
懇親会費		200,000	200,000	0	男性 @ 6,000円 × 25名 女性 @ 5,000円 × 10名
雑収入		20,000	48,002	28,002	御樽・寄付金・預金利息 会報広告料
繰越金		688,414	688,414	0	前年度繰越金
計		1,108,414	1,112,416	4,002	

(支出の部)

項目	区分	令和元年度 予算額	令和元年度 支出額	比較増減	摘要
総会費		210,000	197,640	△12,360	総会費・懇親会費
役員会費		1,000	1,000	0	役員会費
名簿管理委託料		65,000	38,040	△26,960	コンピューター入力・更新
印刷費		110,000	79,430	△30,570	総会用資料・宛名ラベル 会報印刷
通信費		100,000	51,208	△48,792	切手・葉書・電報
会費振込手数料		10,000	11,006	1,006	会費振込手数料
雑費		50,000	42,859	△7,141	コピー・文具等
予備費		562,414	0	△562,414	
計		1,108,414	421,183	△687,231	

決算額 { 総収入額 1,112,416円  
 総支出額 421,183円  
 差し引き 691,233円 (翌年度繰越分)

令和二年度の岳鷹会定期総会が新型コロナウイルス感染拡大を懸念して中止となりましたので、「令和元年度の岳鷹会の決算書」を掲載いたします。

## 大津高等学校生徒歌

作詞 川俣正亮  
作曲 合谷春人

一、ああ東に大阿蘇の  
噴煙高くあがるとき  
若き血潮は火と燃えて  
ああわれらわれら  
いざ ゆかん

二、流れ豊け白川の  
浪にもよするわが思い  
真理のまことつらぬいて  
ああわれらわれら  
いざ ゆかん

三、流れる雲にこの丘に  
かおる歴史よ若人が  
日に新たなるほこりもて  
ああわれらわれら  
いざ ゆかん

## 大津高等学校校歌

作詞 蒲池正紀  
作曲 合谷春人

一、風かぐわしき丘の上  
東にせまる大阿蘇の  
久遠の炎と燃えて  
真理の星を追いやまぬ  
たかき理想の若人よ  
大津高校 おお光あれ

二、黒土匂う肥の国の  
古い杉つづく参道の  
古き大路をたもとおり  
新しき世を興さんと  
誓う誠実の若人の  
大津高校 おお誉あれ

三、つつじの丘を窓に見て  
白川波の音清き  
緑樹のかげに伝え来し  
教えをかかげ敬愛の  
瞳すがしき若人よ  
大津高校 おお栄あれ

## 「岳鷹会」令和三年度定期総会中止のお知らせ

昨年度、新型コロナウイルス感染拡大を懸念して、岳鷹会定期総会を中止したところであり、会員の皆様方におかれましては、今年こそと期待されているものとお察し申し上げます。  
ワクチン接種も始まっている中で、何とか開催できないものかと、種々模索していたところですが、コロナは、治まるどころか、変異ウイルスまで発生し、第四波の到来となり、外出自粛など、様々な対策が進められてきているところでもあります。  
このような状況に鑑み、岳鷹会四役で協議しまして、今年度も総会開催の中止もやむを得ないとの判断をさせていただいたところでございます。  
会員の皆様方におかれましては、二年続きの総会開催中止で、年に一度の顔合わせができずに残念なこととお察し申し上げます。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。  
母校大津高校も来年度には創立百周年を迎えます。岳鷹会としても、更なる会の活性化に努めて参りたいと存じます。  
最後になりますが、今年度の岳鷹会会費の振込用紙を同封いたしますので、納入のほど重ねてお願い申し上げます。

岳鷹会会長 後藤敦夫

### 私の戦争体験 「満州での五年間」

吉田 勇一



私は現在八十二歳、今までの人生を振り返る時先ず頭に浮かぶのは満州での五年間である。

昭和十六年一家揃って開拓団員として満州へ出発。父の夢い夢への挑戦と生きる事への新たな戦いの始まりであった。札蘭屯(ジャラントン)、新京(シンキョウ)、栄口(エイコウ)、奉天(ホウテン)と転々した。私はまだ幼く、その間の事を鮮明に思い描く事は出来ないが、私の頭にこびりついて離れない出来事を幾つか挙げてみることにする。

一 札蘭屯(三、四歳 開拓団員)・毎晩狼の遠吠え、怖い夢をみる事もあった。・子供の教育のため、開拓団を脱出、途中馬賊に襲われるが無事新京へ。馬賊の中に日本人もいた。

二 新京(四、五歳 父は満鉄)・友達とゴム銃遊びをする。現地の人を的に、相手はただ逃げるだけである。その時は、皆がするからそうする。悪い事だとは思わなかった。

三 営口(五、七歳 満州マダネシウム工場)・夏、小川で

の魚とり。奉公人の王さんがよく連れて行ってくれた。大好きな人だった。昭和二十年八月十五日終戦、一時間立ち退き、冬服まで着せられたが、暑くて途中脱いでしまう。母から酷く叱られた。

四 奉天(七、八歳 屋台での商売)・奉天駅で一時皆と逸れる。危うく大地の子だった。その後、収容所へ。三ヶ月後、町での生活、父母や姉は屋台のうどん屋、私は弟二人の子守り。ある日の夜ソ連兵が乱入、家族全員床下や押し入れに隠れる。全員死を覚悟していた。母も姉も丸刈りして男装、私には何故そうするのか分からなかった。昭和二十一年六月、帰国の許可が出る。乗船の時、ソ連兵に銃を突きつけられ身体検査。怖くはなかったが、身体に触られるのが堪らなく嫌だった。

五 帰国(八歳 舞鶴港着)・船上で一ヶ月程過ごし、八月下旬舞鶴駅から熊本県大津町へ。

以上、満州での生活の中で家族全員が様々な体験をしてきた。父の夢は儂く消えたが全員無事に帰国する事は出来た。私はそれほど苦労したとは思っていないが、人の冷たさや醜さ、優しさや温かさにも直接体験してきた。その事は戦争の直接体験ではないが、幼い子供の心に深く焼き付いて離れない「戦争」の産物だと思っている。まだ「生きる」事の何かが全く分からないう子供が支配者と被支配者の生活を両方とも体験した事になる。

### 「岳鷹会の再開を待つ」

高校二十四回卒 阪本 恵子

令和二年二月二十一日初めて熊本県で新型コロナウイルスの感染が確認されました。それから一年が過ぎ「岳鷹会」も中止が続きます。岳鷹会に参加して二十数年、年に一度の同窓生と会う楽しみ「岳鷹会」です。早く新型コロナウイルスが落ち着き、再び会える日が待ち遠しいことです。卒業してやがて五十年、懐かしく鮮明だった思い出も少しずつ薄れていきます。

私は吹奏楽部に所属しておりましたので、毎日授業が終わると渡り廊下を南に歩き、階段教室を過ぎ別棟の小さな部室へ向かいます。部室の前の広い木陰が好きでした。一年生でクラリネットを担当し、先輩方とクラリネットアンサンブルで優秀賞を頂けたことはとても嬉しい出来事として残っています。毎日の厳しい練習、夏の合宿練習、ある日の練習後最終バスに乗り遅れ、やつと帰り着いたら父親に「こんなに遅くなるなら、部活をやめろ」とこっぴどく怒られました。しかし毎年上位入賞していたので厳しかったが面白く過ごした高校生活でした。

毎朝の始業ベルとの競争、休み時間に他愛もないことでクラスメイトと燥いでいたこと、授業中眠くてしようがなかったこと、試験前の詰め込み勉強等々思い出は尽きません。私は二十年前に環境保全を目的とした会社を設立しました。大阿蘇を望む自然環境の中で過ごしたことは忘れられません。現在ではジェンダーレスの考え方が主流ですが、二十年前は「女だてらに」という言葉を多く掛けられました。講演会や会議は紺の背広姿が占め、女性の姿はありません。環境に関しても無関心な、そんな時代でした。あれから二十年、このコロナ禍の時代に変革の時が訪れている(遭遇している)と思わざるを得ません。この春に母校を卒業していく後輩たちの行く末が安寧で穏やかであることを切に願ってやみません。

新学期から私の孫も大津高校の3年生になります。

### 編集後記

会報「岳鷹」第十六号の発行にあたり、ご協力頂きました皆様には、快く、ご協力頂きましたことに、感謝をし、紙面をお借りして、厚くお礼を申し上げます。

熊本地震から五年が経過し、豊肥本線、国道五十七号、新阿蘇大橋などの復旧・開通で、母校への通学の手段が向上していくことに期待しているところでございます。

今年度の総会はコロナ禍の関係で中止となりましたが、会報が会員相互の連携、並びに、情報交換の一助となり、母校との大切な架け橋となることを願っています。

(高校二十四回卒 岩水澄人記)



阪本恵子氏経営の株ビッグバイオ全景

そして、やがて母校は百周年を迎えます。卒業生となった孫と一緒に百周年記念式典に参加できることを楽しみにしている嬉しい春の今日この頃です。